中国語学習者に関する一考察（二）

竹　中　佐英子

要　旨

本稿は明治学院大学の中国語履修者同士，あるいは明治学院大学と他大学の中国語履修者を比較することを通じて，明治学院大学の中国語履修者の特徴を探り，明治学院大学の中国語教育に対して提言を行う。

キーワード：入学方式，学習技法，中国語評価，教員評価，嗜好

1. テーマ選定理由

筆者は東京都新宿区にある私立目白大学（以下，「目白」）外国語学部中国語学科（以下，「C 科」）の有期雇用講師である。C 科は平成 17（2005）年 4 月に開学，中国語を主専攻とし，1，2 年次生は中国語（作文，読解，会話）の授業が週 6 こま必修である。平成 20（2008）年 4 月～，筆者は明治学院大学（以下，「明学」）横浜校舎の国際学部（以下，「国際」）「中国語 1AB 2AB」と，経済，社会など複数の学部の学生が履修する「中国語研究 2AB」（以下，「研究」）を担当するようになった。

国際と C 科は共にゼロから中国語を学ぶ者を対象とする講座なので，学習成果の違いを調査するため，国際「中国語 1A 2A」と C 科「中国語 1A（作文）」の春学期第 1～14 回目の授業では同一の教材，教授法を用いて同一の学習事項を教授した後，同一の中間試験，基礎学力試験を持ち込み一切不可で実施している。資料 1 は中間試験，資料 2 は基礎学力試験の問題の一部，表 1 は各試験の平均点である。なお，国際と C 科の春学期期末試験の問題は全く異なること，基礎学力試験は毎回問題や採点方法が若干異なることをお断りしておく。「国 07」「C 科 5 期」などの表記が意味することについては 2.1. を参照していただきたい。

【資料 1】 次の日本語を中国語にし，ピンイン（拼音）と簡体字で表しなさい。

⑨　現在私は大学で中国語を勉強している。

【資料 2】 ①～③の漢字はその読み方，④～⑥のカタカナはその漢字表記，⑦～⑮の空欄は当てはめるのにふさわしい数字や語句を記しなさい（抜粋）。

①　金銭<u>出納</u>簿。

⑤　ガンチクのある言葉。

⑦　52－4×3＝（　　）

⑪　ヨーロッパ諸国の通貨単位は（　　）である。

⑫　中華人民共和国（中国）の首都は（　　）である。

表 1　各試験の平均点

	国 07	国 08	国 09	C 科 5 期	C 科 6 期
春学期中間試験（100 点満点）	80.7 点	81.9 点	73.8 点	82.9 点	78.7 点
春学期期末試験（100 点満点）	88.1 点	89.7 点	82.7 点	76.2 点	71.6 点
基礎学力・漢字読み書き（12 点満点）	8.9 点	9.3 点		6.8 点	
漢字読み書き試験（6 点満点）			3.5 点		2.67 点
基礎学力試験（9 点満点）			7.0 点		5.65 点

⑬　2010 年 4 月現在，中華人民共和国（中国）の人口は約（　　）人である。

⑭　2010 年 4 月現在，日本国の内閣総理大臣は（　　）である。

表 1 を見るに，国際の 1 週当たりの中国語の授業時間数は C 科より 2 こま少ない（2.1. 参照）ものの，国 07，08 の中間試験の平均点は C 科 6 期より高く，基礎学力・漢字読み書き試験も国際 3 グループ全てが C 科を 0.83 点〜2.1 点上回っている。この結果は国際の方が C 科よりも基礎学力が高く，中国語学習においてより成果を上げていることを示している。筆者は竹中 2009b で国際の学生が成果を上げた理由を分析，彼らには▽中国語学習動機が高い▽基本的学習技法が身に付いている▽教員から知識，技術を学び取ろうとする意欲が強い▽家庭教育がなされている▽向上心がある ── といった長所があることがわかった。

しかし，国 09 には憂慮すべき現象が現れている。それは同一レベルの問題を出題した春学期定期試験において，国 09 の平均点が国 07, 08 より中間試験で 6.9〜8.1 点，期末試験で 5.4〜7 点下がったことである。国 09 の学生は授業態度が悪いわけではないのだが，国 07, 08 が理解できた説明では理解できない，教材をそのまま写せば正解できる持ち込み可の小テストを何カ所も間違える，といった学生が少なくない。

そこで本稿はこの 3 年間の国際中国語履修者の入学方法，学習技法，教員評価などを比較し，それぞれの特徴や中国語の学習成果を左右する要素を探った上で，明学の中国語教育が歩むべき道を考える。

2. 調査方法の紹介

本章では国際，C 科に対して行った試験，アンケート調査の結果を分析し，国際中国語履修者の特徴を入学年度毎に探っていく。

2.1. 調査対象

調査対象は明学国際 2 年次生中国語履修者（2007, 2008, 2009 年度入学者，それぞれ「国 07」「国 08」「国 09」），目白 C 科 5 期生（2009 年度入学者，「C 科 5 期」），6 期生（2010 年度入学者，「C 科 6 期」）である。C 科の調査結果も紹介するのは，国際と C 科を比較することを通じて，明学国際ならではの特徴をつまびらかにし，様々な問題の原因を根本から見極めるためである。国 07, 08, 09 はドイツ語，フランス語，ロシア語，スペイン語，朝鮮語，中国語の中から 1 言語を必修選択として週 4 こま，C 科は主専攻として週 6 こま，中国語を学ぶ。表 2 に各調査対象の内訳を示した。偏差値は旺文社のインターネットサイト「大学受験パスナビ」を参照した。「第一志望」と

表 2　調査対象の内訳

	国 07	国 08	国 09	C 科 5 期	C 科 6 期
入学年度	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 21 年	平成 22 年
偏 差 値	56	56	56	40	40
総　　数	29 人	20 人	24 人	22 人	23 人
第一志望	14 人（48%）	4 人（20%）	12 人（50%）	12 人（54%）	13 人（56%）

はアンケート調査で「受験時，明学／目白を第一志望とした」と回答した学生を指し，国 08 を除く 4 グループで約半数に達している。偏差値は国際の方が C 科より 16 ポイント高い。国際が C 科より授業時間数が少なくても同一試験の平均点が高い（表 1 参照）理由の 1 つは，偏差値（基礎学力）の違いにあると考えられる。

2.2. 調査実施方法

アンケート調査は国 07, 08, 09, C 科 5, 6 期生の 5 つのグループを対象に記名式で行った。質問事項とそれに対する選択肢は，教員と学生との対話中に出された意見を中心に作成，回答は選択肢から選ばせたり，自由に記述させたりした。なお，アンケート調査は複数回行ったため，調査毎に回答者数が若干異なっていたり，グループによっては調査を行っていない項目もある。

3. 調査結果とその分析

3.1. 入学方式

本節では入学方式と中国語の学習成果の関係について分析する。

表 3 は入学方式，すなわちどのような入学試験を受けて明学，目白に入学したかをグループ毎に示したものである。国 07 に対しては調査を行っていない。

明学の国 08 では一般入試（「一般」），大学入試センター試験利用（「センター」）といった学力考査を経て入学した学生が 20 人中 13 人（65%）いる。一方，国 09 では一般とセンターを経て入学した学生は 24 人中 9 人（37.5%）に留まってい

表 3　入　学　方　式

	国 08	国 09	C 科 5 期	C 科 6 期
一　　般	10 人（50%）	7 人（ 16%）	第一志望：5 人（22%） 第二志望：3 人（13%）	第 一 志 望：8 人（34%） 第 二 志 望：2 人（8.6%） 全学部統一：2 人（8.6%）
センター	3 人（ 15%）	2 人（ 8%）	2 人（ 9%）	1 人（ 4%）
AO	2 人（ 10%）	1 人（ 4%）	8 人（ 36%）	7 人（ 30%）
指定校推薦	1 人（ 5%）	8 人（ 33%）	4 人（ 18%）	2 人（ 8.6%）
キリスト教推薦	2 人（ 10%）	3 人（12.5%）		
内部推薦	1 人（ 5%）	3 人（12.5%）		
留 学 生	1 人（ 5%）			
社 会 人				1 人（ 4%）

るのに対し，指定校，キリスト教，内部の 3 種類の推薦入試（「推薦」）を経て入学した学生が計 14 人（58.3%）と，半数以上に上る。

目白の一般は受験学科の他，他学科 1 つを第二希望とすることが可能で，第一志望の学科が不合格の場合，第二志望の学科の二次判定に送られ，そこで合格と判定されれば，第二志望の学科への入学を許可される。目白の「全学部統一」入試とは一般とは別日程で行われる，学力考査型入試である。出願時に 3 学科迄希望することができ，第一志望の学科が不合格だと第二志望の学科の二次判定，第二志望の学科も不合格だと第三志望の学科の二次判定に送られ，合格と判定された 1 学科への入学を許可される。C 科は一般，全学部統一，センターといった学力考査を経て入学した学生が 5 期では 22 人中計 10 人（45%），6 期では 23 人中計 13 人（56%）で，共に半数前後である。

明学国際と目白 C 科の大きな違いは，AO 入試（「AO」）を経て入学した学生の割合で，国際では 1 割以下に留まっているのに対し，C 科では 3 割強を占める。これは C 科が開学以来定員 40 人を満たしたことが無く，毎年一般の受験者も少ないため，一般実施前の AO でできるだけ合格者を出し，入学者を確保しているためである。

表 4 は入学校（すなわち明学または目白）を含めた受験校数をグループ毎に示したものである。国 07 に対しては調査を行っていない。国際と C 科には 4 校以上受験した学生の割合が半数以下，という共通点がある。一方，1 校（在学校）だけ受験した学生が C 科 5, 6 期では半数割程度いるのに対し，明学では国 08 が 4 分の 1, 国 09 は 6 割強と，入学年度によって大きく異なる。1 校だけ受験した学生は推薦または AO で入学した学生で，一般やセンターといった学力考査を経た学生で 1 校だけ受験したという者はほとんどいない。推薦，AO 合格者は普通，一般が行われる時期よりだいぶ前に合格と決定するので，他大学を受験する必要がなく，こういった入学方式の学生が約 6 割いる国 09（表 3 参照）は 1 校だけ受験した学生が多いのである。4 校以上受験した学生は，C 科 5 期がゼロ，国 08 と C 科 6 期が約 2 割だが，国 09 には 3 割強いる。学生間の受験校数にかなりの差があるという特徴が見られるのは国 09 だけである。

表 5 は国 08, 09, C 科 5, 6 期に対して同一の教材，教授法を用い，同一の時間数をかけて授業を行った後，持ち込み一切不可で実施した同一内容の春学期中間試験（第 1 章資料 1 参照）の平均点を，グループ毎かつ入学方式毎に示したものである（各グループの平均点は表 1 参照）。国 07 に対しては入学方式を調査していないので表 5 には掲載できない。

4 グループ全体を見るに，一般入学者の平均点は 84〜86 点でほとんど同じであり，かつ各グルー

表 4　受験校数（択一）

	国 08	国 09	C 科 5 期	C 科 6 期
1 校	5 人（25%）	15 人（63%）	12 人（55%）	10 人（44%）
2〜3 校	11 人（55%）	1 人（4.2%）	10 人（45%）	8 人（35%）
4〜5 校	3 人（15%）	5 人（21%）	0 人（ 0%）	4 人（17%）
6〜7 校	1 人（ 5%）	2 人（8.3%）	0 人（ 0%）	1 人（ 4%）
8 校以上	0 人（ 0%）	1 人（4.2%）	0 人（ 0%）	0 人（ 0%）

表 5　入学試験と春学期中間試験の得点（100 点満点）

	国 08	国 09	C 科 5 期	C 科 6 期	4 グループ平均
一　　般	86 点	84 点	86.4 点	86.1 点	85.625 点
センター	70.6 点	86.3 点	91.3 点	51.2 点	74.85 点
AO	55.6 点	61.5 点	71.5 点	68.2 点	64.2 点
指定校推薦	98.8 点	82.1 点	88.4 点	75.8 点	86.275 点
キリスト教推薦	77 点	60.9 点			68.95 点
内部推薦	97 点	44.2 点			70.6 点

プにおいて上位に位置している。このことから，一般という学力考査を経て入学した学生は概ね，中国語学習でも一定の成果を上げることができると言って良い。

センター，AO，推薦の入学者の平均点は，入学年度によって 10 点以上の差がある。例えば，センター入学者の平均点は国 09 が国 08 より 15.7 点高く，指定校推薦入学者の平均点は国 08 が国 09 より 16.7 点高い。内部推薦に至っては国 08 が国 09 を 52.8 点も上回っている。センター，AO，推薦の入学者の人数は一般ほどおらず，表 5 のデータ自体が必ずしも信憑性の高いものではないことを念頭に置いた上で論ずるのだが，AO とキリスト教推薦の入学者の平均点は良好とは言い難いだろう。6 種類の入学方式毎の平均点で，AO は国 08 と C 科 5 期においては最下位，国 09 と C 科 6 期においては下から第 2 番目であり，キリスト教推薦は国 08 においては第 4 番目，国 09 においては第 5 番目である。この理由は，AO やキリスト教推薦が学力考査を中心とした試験ではないことにあるだろう。例えば，C 科の AO は期日迄に指定されたテーマ（「中国文化に対する興味」「中国渡航体験紹介」など）のレポート，試験日の口頭発表と面接で合否を判定する。学力考査はなく，高校評定もほとんど考慮しない。そのため，C 科の AO 入学者は基礎学力が低く，学習技法も身に付いておらず，入学後の単位修得が困難となり，退学，除籍になる学生も少なくない。筆者は竹中 2008b で入学試験の成績と入学後の中国語の成績の関係をピアソンの相関分析を用いて考察したところ，中国語の成績は一般入試の得点，中でも英語の得点と正の相関が優位傾向であった。持ち込み一切不可の試験を採点すると，国際でも C 科で一般入学者に高得点者が多いことに変わりはない。

以上の考察から，学力考査を経て入学した学生は中国語学習において一定の成果を上げることができるのに対し，学力を問われない入学方式を経て入学した学生は成果が上がりにくいと言って良いのではなかろうか。今後はデータを積み上げ，更に分析を続けていく。

3.2. 学習技法

本節では中国語の学習技法と学習成果の関係について分析する。

【質問 1】 授業をあまり聴いていないことがしばしばある。
【質問 2】 授業を理解できないことがしばしばある。
【質問 3】 発音練習はあまり好きではない。
【質問 4】 授業以外，中国語を一切勉強していない。

表 6 は質問 1〜4 に「はい」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。質問 1「授業をあまり聴いていない」学生は国 07 で 2 割，国 08 と C 科 5 期で 3 割強だが，C 科 6 期は半数近く，国 09 は 6 割以上いる。質問 2「授業を理解できないことがしばしばある」学生は国 07 で 2 割，C 科 5 期で 4 割だが，国 08 と C 科 6 期は半数，国 09 に至っては 4 分の 3 にも上る。質問 3「発音練習をあまり好きではない」学生は国 07, 08, C 科 5 期では 1 割強だが，C 科 6 期は 2 割強，国 09 は 3 割近い。質問 4「定期試験の前日も含め，授業以外に一切中国語を勉強していない」学生は国 08 でゼロ，国 07, 09, C 科 5 期で 1 割強，C 科 6 期では 3 割近い。国 09 は授業中騒がしくする，許可なく教室を出入りするなど，授業秩序を乱す学生はおらず，表面上は皆おとなしく授業を受けているが，表 6 を見るに，実は授業を真剣に聴いていないこと，その理由が授業を理解できないことにあることがわかる。春学期中間試験の平均点は上位から順に C 科 5 期，国 08, 国 07, C 科 6 期，国 09 であり（表 1 参照），授業を聴かない，理解できない，自習しない傾向が強い国 09 と C 科 6 期の平均点が低い。筆者は竹中 2008b で目白の中国語履修者の学習技法と成績の関係を調査，「授業を良く聴く」「発音練習に積極的に参加する」「ノートを細かく取る」など，学習技法を身に付けている学生ほど中国語の成績が上位であるという分析結果を得たが，明学国際の中国語履修者も成績の善し悪しと学習技法の有無が連動していることがわかる。

【質問 5】 講義が理解できない理由を，以下の 3 項目の中から 1 つだけ選択せよ。

表 7 は「講義が理解できない理由」を 3 つの選択肢から 1 つ選ばせた結果である。「勉強不足によるもの」と考える学生がどのグループでも半数以上を占め，「自分が勉強が得意ではないため」と考える学生も 1〜2 割いる。一方，「教員側の不備」と考える学生が国 07, 09, C 科 5 期で 2〜3 割，国 08 に至っては 4 割以上に上るが，この結果は 2 つのことを示している。1 つは教員の説明

表 6　中国語学習技法

	国 07（29 人）	国 08（20 人）	国 09（24 人）	C 科 5 期（19 人）	C 科 6 期（22 人）
質問 1	6 人（21%）	7 人（35%）	15 人（63%）	7 人（37%）	10 人（46%）
質問 2	6 人（21%）	10 人（50%）	18 人（75%）	8 人（42%）	11 人（50%）
質問 3	4 人（13%）	2 人（10%）	7 人（29%）	2 人（11%）	5 人（23%）
質問 4	4 人（14%）	0 人（0%）	4 人（17%）	3 人（16%）	6 人（27%）

表 7　講義が理解できない理由（択一）

	国 07（29 人）	国 08（20 人）	国 09（24 人）	C 科 5 期（19 人）	C 科 6 期（22 人）
先生の説明がわかりにくい	7 人（24%）	9 人（45%）	7 人（29%）	4 人（21%）	2 人（ 9%）
自分が勉強不足	17 人（59%）	10 人（50%）	14 人（58%）	11 人（58%）	17 人（77%）
自分が勉強が得意ではない	5 人（17%）	1 人（ 5%）	3 人（13%）	4 人（21%）	3 人（14%）

が難解で，学生の理解力を逸脱している可能性であるが，これは専門用語の使用を控える，抽象性の高い概念は図や映像を用いて具体的に示すなど，教育法を工夫することにより解決可能である。もう1つは問題の原因を自身の学力，努力不足という内的要因ではなく，教員の教育法という外的要因に帰属させる責任転嫁型学生が一定数いる，という事実であるが，これは学生の複雑な心情が左右しており，教育法を変えて改善するとは限らない。Lefcourt は問題の原因について，外的帰属傾向の人は内的帰属傾向の人よりも成功，失敗両方の責任を受け入れない傾向にあるとし，筆者も同様の分析結果を得ている。C科の1期生（2005年度入学者）は同調査で「教員側の不備」と答えた学生が約4割おり（竹中 2008b p. 209，竹中 2009b p. 214），中国語学習成果が上がらない原因を教員の教え方，学友のやる気の無さに責任転嫁する傾向が極めて強く（竹中 2007a pp. 119–120, 竹中 2008a pp. 99–100, 竹中 2008b p. 239），筆者を含む中国語教員が授業において様々な工夫を施したものの（竹中 2007b p. 94, 竹中 2009a p. 105），定期試験の平均点，中国語検定試験の合格率は常に芳しくなかった（竹中 2007a pp. 115–116, 竹中 2008a p. 91）。もし，国際で外的帰属傾向の学生が増えると，更に学習成果が低下すると予測される。

3.3. 中国語評価

本節では中国語学習，カリキュラムに対する評価と学習成果の関係について分析する。

表8は「中国語を学習してみて感じた難易度」を3つの選択肢から1つ選ばせた結果である。春学期中間試験の平均点が2番目に高い国08では6割が中国語を「簡単」，1番高いC科5期では5割が「難しい」，2番目に低いC科6期では約6割が「難しい」，3番目の国07と一番低い国09では4〜5割が「普通」という認識を持っている傾向が見られる。この調査結果を見るに，「難しい」と認識しようが，「普通」と認識しようが，成果を出すグループとそうでないグループがあることがわかる。国09は春学期中間試験の平均点が最も低いが，「難しい」と認識した学生の割合は4分の1に留まっている。国09の平均点が低迷した理由は，中国語学習の困難点に気付くことができず，真剣に授業を聞かない（3.2. 表6参照）ことにあるのかもしれない。

【質問6】 中国語学習は興味が持てる。
【質問7】 週4（あるいは6）こまは多い。
【質問8】 ピンインは覚えづらい，覚えられない。

表9は質問6〜9に「はい」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。明学国際3グループの中で春学期中間試験の平均点が最も高い国08は8割が中国語に興味を示していながら，7割が1週当たりの中国語の授業時間数が4こまというカリキュラムを評価していない。その次に平均点が高い国07は中国語に興味

表8　中国語の難易度に対する認識（択一）

	国07（29人）	国08（20人）	国09（24人）	C科5期（19人）	C科6期（22人）
簡　単	5人（17%）	12人（60%）	6人（25%）	5人（26%）	4人（18%）
難しい	12人（41%）	5人（25%）	6人（25%）	10人（53%）	13人（59%）
普　通	12人（41%）	3人（15%）	12人（50%）	4人（21%）	5人（23%）

表 9　中国語学習に対する評価

	国 07（29 人）	国 08（20 人）	国 09（24 人）	C 科 5 期（19 人）	C 科 6 期（22 人）
質問 6	19 人（66%）	16 人（80%）	18 人（75%）	18 人（95%）	18 人（82%）
質問 7	7 人（24%）	14 人（70%）	4 人（17%）	1 人（ 5%）	2 人（ 9%）
質問 8	10 人（34%）	3 人（15%）	13 人（54%）	4 人（21%）	9 人（41%）

を持つ学生が 7 割弱，カリキュラムを評価しない学生が 2 割強と少なめである。平均点が最も低い国 09 は中国語に興味を持つ学生は 7 割強と比較的多く，カリキュラムも比較的評価している。

憂慮すべきは，質問 8「ピンインは覚えづらい，あるいは勉強しているのに覚えられない」と答えた学生が国 07 で 3 割強，C 科 6 期で 4 割，国 09 に至っては半数以上に上っている点である。「ピンイン」とは中国語の漢字音を表すローマ字表記のことで，例えば中国語で「わたし」を表す語 “我” はピンインで表すと “wǒ” であり，「ウォー」のように発音する。ピンインは表記から想起される音と実際の発音に大きな違いがあり，“si” は「スー」，“qu” は「チュー」，“cong” は「ツォン」のように発音する。現在出版されている初級中国語教材や辞書は全てピンインで中国漢字音を表記しているので，学習開始当初はピンインの読み書き規則をマスターすることが避けては通れない。しかし，国 09 と C 科 6 期はピンイン学習に困難を感じる学生が少なくない。この 2 グループが学習に躓いていることは，春学期中間試験の平均点の低さ（表 1 参照）となって表れている。筆者はこの調査を通じ，同じ明学国際でも，入学年度によってピンイン学習に対する認識に大きな違いがあることに初めて気付いたので，今後は入学年度毎に学生の特徴をいち早くつかみ，教育法を変えて対応していく。

3.4. 教員評価

本節では教員評価に関する回答結果を分析する。

【項目 1】 定刻より遅く教室に来る。
【項目 2】 定刻より早く授業を終わる。
【項目 3】 休講が多い。
【項目 4】 宿題，レポートをあまり出さない。
【項目 5】 試験，小テストをあまりしない。
【項目 6】 欠席が多く，試験の得点が低くても，単位をくれる。
【項目 7】 学習上の誤り，不足を「できなくても仕方ない」と許容する。
【項目 8】 私語，携帯電話操作など，授業態度が悪くても注意しない。

表 10 は「項目 1〜6 のような言動は教員として望ましくないが，学生としては嬉しく思う」，表 11 は「項目 7, 8 のような教員の言動は評価できない」と回答した学生数およびそのグループに占める割合（%）である。いずれのグループにも，項目 2「授業を早めに切り上げる」項目 4, 5「試験，レポートを課さない」教員を嬉しく思うという共通点がある。春学期中間試験の平均点が最も低い国 09 の回答に注目したい。国 09 には，項目 1「定刻より遅く教室に来る」項目 3「休講が多い」項目 7「学習上の誤り，授業態度の悪さを注意しない」教員を歓迎する傾向が見られる一方，他のグループに比べて，項目 6「出席率や試験が

表 10　嬉しく思う教員の言動（複数回答可）

	国 07（29 人）	国 08（20 人）	国 09（24 人）	C 科 5 期（19 人）	C 科 6 期（22 人）
項目 1	9 人（31%）	10 人（50%）	14 人（58%）	10 人（53%）	14 人（64%）
項目 2	20 人（69%）	13 人（65%）	10 人（42%）	12 人（63%）	12 人（55%）
項目 3	6 人（21%）	9 人（45%）	15 人（63%）	2 人（11%）	8 人（36%）
項目 4	25 人（86%）	13 人（65%）	12 人（50%）	14 人（73%）	15 人（68%）
項目 5	17 人（59%）	10 人（50%）	10 人（42%）	11 人（58%）	14 人（64%）
項目 6	16 人（55%）	7 人（35%）	9 人（38%）	9 人（47%）	10 人（46%）

表 11　評価できない教員の言動（複数回答可）

	国 07（29 人）	国 08（20 人）	国 09（24 人）	C 科 5 期（19 人）	C 科 6 期（22 人）
項目 7	17 人（59%）	11 人（55%）	13 人（54%）	15 人（79%）	10 人（46%）
項目 8	26 人（90%）	15 人（75%）	14 人（58%）	16 人（84%）	14 人（64%）

不良でも単位を与える」教員を嬉しく思う割合が低い。筆者は竹中 2009a, 竹中 2009b で国 07 と C 科の教員評価を比較，国 07 が「教員は学生の学習上の誤り，授業態度の悪さを矯正すべきだ」と考えているのに対し，C 科は「教員は学生の素行の悪さを許す存在であって欲しい」と考えている，という調査結果が出たが，今回の調査結果では国 09 が教員に C 科と同じ要求をしている面が垣間見られる。つまり，国 09 は C 科同様，教員は普段の授業はあまり厳しくやらないで欲しいという甘えた気持ちを持つと同時に，国 07 同様，最後の単位認定だけは厳格にすべきという正義感も持っているのである。国 09 が国 07, 08 に比べて学習成果が上がらない原因は，中国語学習成果の最終到達点を低く設定して欲しいという要求，向上心の薄さも関係しているのではなかろうか。

3.5. 大学評価

本節では大学に対する評価と中国語学習成果の関係について分析する。

表 12 は「在学校に対する満足度」を 3 つの選択肢から 1 つ選ばせた結果，表 13 は在学校を「不満」あるいは「満足でも不満でもない」という学生が答えた不満の理由をグループ毎に上位 3 項目迄示したものである。

まず，在学校に対する満足度であるが，最も高いのは春学期中間試験の平均点が最も低い国 09 で，「満足」が 7 割に達し，「不満」と回答した学生はゼロである。その他 4 グループは「満足」と回答した学生がいずれも 3〜4 割に留まっている。筆者は竹中 2008a で C 科だけを対象とした大学生活に対する満足度を調査，その時は満足度と中国語の学習成果は比例するという結果が出たが，今回の国際を対象とした調査では，大学生活に満足していても，中国語学習成果につながるわけではない，という異なる結果が出た。まだデータが多くないので，今後も調査を続けたい。

次に在学校に不満を持っている理由であるが，C 科では「学費が高い」「小規模」という回答が目立っているのに対し，国際では「学費が高い」の他，「興味が持てる授業が少ない」という回答が 6〜8 割の高きに達し，C 科には不満理由の上位には入っていない「履修したい科目が履修できない」という回答も 3〜4 割ある。この調査結果

表 12　在学校に対する満足度（択一）

	国 07（29 人）	国 08（20 人）	国 09（24 人）	C 科 5 期（19 人）	C 科 6 期（22 人）
満　　足	9 人（31%）	9 人（45%）	17 人（71%）	8 人（42%）	9 人（41%）
不　　満	5 人（17%）	2 人（10%）	0 人（ 0%）	2 人（11%）	4 人（18%）
どちらでも	15 人（52%）	9 人（45%）	7 人（29%）	9 人（47%）	9 人（41%）

表 13　在学校不満の理由（複数回答可）

国 07（20 人）	国 08（11 人）	国 09（7 人）	C 科 5 期（11 人）	C 科 6 期（13 人）
興味が持てる授業が少ない（14 人，70%） 学費が高い（9 人，45%） 履修したい科目が履修できない（8 人，40%）	学費が高い（8 人，72%） 興味が持てる授業が少ない（7 人，63%） 学内施設が不完全（5 人，45%）	興味が持てる授業が少ない（6 人，86%） 学費が高い（3 人，43%） 履修したい科目が履修できない（2 人，29%）	学費が高い／興味が持てる授業が少ない（6 人，55%） 小規模（3 人，27%）	学費が高い／小規模（8 人，62%） 学内施設が不完全（4 人，31%）

は，明学国際の現在のカリキュラムが学生側の学習要求を満たすものではないことを示している。筆者は非常勤でしかなく，明学のカリキュラム設定を行う立場にないので，専任の教職員の方々が中国語も含めて学生のニーズに合ったカリキュラムを再考していただけるよう，希望する。

3.6. 携帯電話，喫煙，飲酒

本節では携帯電話使用，喫煙，飲酒習慣と中国語学習成果の関係について分析する。

表 14 は携帯電話使用状況，表 15 は喫煙，飲酒習慣に関する調査結果である。1 カ月当たりの携帯電話使用料は，春学期中間試験の平均点が最も高い C 科 5 期は 1〜2 万円，2 番目の国 08 は 6,000〜8,000 円，3 番目の国 07 は 8,000〜1 万円，4 番目の C 科 6 期は 6,000〜8,000 円，最下位の国 09 は 8,000〜1 万円，と答えた割合が最も多い。明学国際 3 グループの中で最も平均点が高い国 08 には 1〜2 万円が 1 人しかいないのに対し，国 07 では 7 人，国 09 では 4 人おり，携帯電話使用料と中国語の学習成果が反比例する傾向が若干見られる。喫煙率は，春学期中間試験の平均点が 80 点以上の C 科 5 期，国 07, 08 は 1 割以下だが，70 点台の C 科 6 期と国 09 は 2 割強おり，携帯電話使用料よりも喫煙率の方と中国語の学習成果が反比例する傾向が強く見られる。飲酒習慣を持つ学生は国際の方が多い。筆者は竹中 2009b で C 科の学生が趣味がなく，学校やアルバイト以外の社会的集団とのつながりが希薄であるのに対し，国際の学生がボランティア，サークル活動，お稽古事など，大学生活以外に打ち込める活動を持っている学生が多いという調査結果を出したが，こういった変化に富んだライフスタイルが飲酒の機会を増やしているのではないかと推測する。次回の調査では飲酒方法も調査したい。

4. 分析結果の総括

以上，国際，C 科の入学方式，学習技法，中国語や教員に対する評価などの違いを調査，比較したが，明学国際の中国語履修者には以下のような特徴が見られる。

⑴　国 08 には学力考査を経て入学した学生が多いのに対し，国 09 には学力考査のない入学方

表 14　1 カ月当たりの携帯電話使用料金

	国 07（29 人）	国 08（20 人）	国 09（24 人）	C 科 5 期（19 人）	C 科 6 期（22 人）
～ 6,000 円	9 人（ 31%）	4 人（ 20%）	5 人（20.8%）	6 人（ 32%）	5 人（ 23%）
～ 8,000 円	2 人（ 6.9%）	8 人（ 40%）	6 人（ 25%）	3 人（ 16%）	10 人（ 46%）
～10,000 円	11 人（ 38%）	6 人（ 30%）	8 人（33.3%）	3 人（ 16%）	3 人（ 14%）
～20,000 円	7 人（ 24%）	1 人（ 5%）	4 人（16.7%）	7 人（ 37%）	3 人（ 14%）
～30,000 円	0 人（ 0%）	0 人（ 0%）	0 人（ 0%）	0 人（ 0%）	1 人（ 4%）

表 15　喫煙，飲酒習慣

	国 07（29 人）	国 08（20 人）	国 09（24 人）	C 科 5 期（19 人）	C 科 6 期（22 人）
喫煙習慣無	26 人（ 90%）	19 人（ 95%）	18 人（ 75%）	17 人（ 90%）	17 人（ 77%）
飲酒習慣無	20 人（ 69%）	9 人（ 45%）	12 人（ 50%）	14 人（ 74%）	17 人（ 77%）

式で入学した学生，学習技法の把握，授業理解に困難がある学生が多い。

⑵　国 09 は表面上の授業態度は悪くないものの，真剣に授業を聴いているわけではない。

⑶　国 09 は国 07, 08 に比べ，中国語学習入門期の最重要ポイント「ピンイン」学習にかなり困難を感じている。

⑷　国 07 は教員に誤りの矯正を求めているのに比べ，国 09 は教員に一定の怠慢を受け入れるよう求めている。

⑸　国 09 は国 07, 08 に比べ携帯電話，喫煙に依存する傾向が若干見られる。

5. 今後の研究課題

以上の分析結果に基づき，今後の明学の中国語教育の研究課題として，以下の 4 項目を提案する。

⑴　入学者獲得方法の再考。大学全入時代に一定数の学生を確保するのは至難の業であるが，学力考査を経ず入学した学生は，入学後の学習で成果を出すことが困難であり，単位取得不良，退学の可能性も高い。明学の将来を考えると，一定レベルの教育に 4 年間耐えうる入学者を選抜することが大事である。

⑵　教育法の再考。3 年間という短い期間ではあるが，筆者は年度により明学国際の中国語履修者の授業理解度に差があることに気付いた。そして今回の分析の結果，それは入学方式と強い関連性があることを発見した。毎年同じ教育法では，単位の取れない学生が増える年度もある。逐次教育法の見直しが必要である。

⑶　カリキュラムの再考。今回の調査の目的は中国語履修者の特徴を探るものであったが，思いがけないことに，明学国際の学生はカリキュラムに対し一定の不満を持っていることがわかった。非常勤では如何ともしがたい問題なので，専任の教職員の方々に是非，再考していただきたい。

⑷　問題学生の発見。明学国際の中国語履修者は表面上の授業態度に大きな問題はないが，一部には自身の非をあまり認めない外的帰属学生（3.2. 表 7 参照）や，教材をそのまま写せば正解できる持ち込み可の小テストを何カ所も間違える学生も存在する。難易度の低い問題で不正

解を繰り返す学生は故意ではなく，理性では解決できない原因を抱えているかもしれないので，専門家による適切な指導をしないと，プライドが傷ついてしまう。特定科目だけを担当する非常勤としては，問題学生のゼミ担当者や学生指導部門などに報告するネットワークを常に確立しておいていただきたい。

参考文献

竹中佐英子 2007a.「中国語専攻に関する一考察（二）」，『目白大学高等教育研究』第 13 号，pp. 115-127

竹中佐英子 2007b.「大学はどこまで学生を教育することができるのか？」，『人と教育』創刊号，pp. 92-98

竹中佐英子 2008a.「中国語専攻に関する一考察（三）」，『目白大学高等教育研究』第 13 号，pp. 91-104

竹中佐英子 2008b.「中国語の学習成果を左右する要素の分析」，『目白大学人文学研究』第 4 号，pp. 229-241

竹中佐英子 2009a.「中国語学科に関する一考察」，『目白大学高等教育研究』第 15 号，pp. 105-112

竹中佐英子 2009b.「中国語学習者に関する一考察 ── 明治学院大学と目白大学の比較 ──」，『カルチュール』第 3 巻第 1 号，pp. 211-222